



営農NEWS



落葉果樹の冬季防除を徹底しましょう

果樹栽培では、収量や品質を低下させる病害虫の越冬密度を減らすため、冬季のうちに園内の耕種的な防除作業や薬剤防除を行うことが重要です。本年、病害虫の発生が問題となった果樹園では、下記を参考に防除を徹底してください。

1 圃場内の落葉処理などを徹底しましょう

果樹病害の多くの病原菌（黒星病、落葉病、うどんこ病、べと病、さび病、灰色かび病など）が、落葉中に寄生して越冬し、翌年に落葉から胞子を生じて飛び散り、再び新しい葉などに感染して発病します。また、ハダニ類など害虫も落葉の下などで越冬します。

このため、落葉はそのまま放置せず、労力を要しますが、エンジン式のブロワ等を利用して出来るだけ丁寧に集めて、土中に埋めるなど適切に処分してください。また、園内で落葉が集まる場所（季節風の風下など）に、深さ30～40cmの適当な幅で溝を掘っておき、そこに集まったものを翌春の3月までに埋め戻すなどの方法や、秋冬季にロータリー耕等により、落葉を粉碎して土中にすき込む簡易な方法でも、効果が期待できます。

今年、ナシ黒星病の発生が多かった園では、来年の安定生産に向けて、落葉処理の徹底が特に重要です。

さらに、剪定した枝や巻き蔓なども丁寧に集めて、適切に処分してください。なお、剪定した樹の切り口から枯れたり、病原菌が侵入して発病する場合がありますので、ナシ、リンゴ、カキ、ウメなどでは切り口にトッジンMペースト（原液を塗布、使用時期：剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後、使用回数：3回以内）またはバッチレート（原液を剪定枝の切り口、病患部の削除あとに塗布、使用時期：剪定時及び病患部削り取り直後、使用回数：3回以内）（令和3年12月7日現在）を塗ると効果的です。

2 樹幹の粗皮削りなどを行いましょ

果樹の樹皮は、古くなると表面に亀裂を生じ、デコボコになります。このデコボコした樹皮の隙間に、各種病原菌やハダニ類、カイガラムシ類、ハマキムシ類、シンクイムシ類などが入り込み、そこで越冬する場所となります。

このため、樹皮の表面を鎌などで削り取って滑らかにすることで、病害虫の越冬する場所を削減し、越冬する密度を低下させることができます。特に、枝の股になっているところは病害虫の越冬場所になりやすいので、念入りに削り取ることが重要です。

なお、粗皮削りは耕種防除の有効な一つですが、厳寒期に粗皮を激しく削ると、樹勢が落ち、凍害を受けやすくなる場合がありますので注意が必要です。また、枝幹部に生じた輪紋病の丸いイボ皮病斑は、周囲の表皮まで含めて丁寧に削り取り、殺菌塗布剤（トッジンMペーストなど）で傷口をふさぐ処理をしてください。

3 休眠期の薬剤防除を実施しましょう

越冬中の薬剤防除として、各種の越冬病害虫に対して効果のある「石灰硫黄合剤」やカイガラムシ類やハダニ類などに効果のある「機械油乳剤95（マシン油乳剤）」の散布が効果的です。これらの薬剤は、新芽が動く前までに散布することが必要で（機械油乳剤の厳寒期や樹勢の低下した樹への散布は控える）、風のない穏やかな日に、かけむらのないように丁寧に散布してください。なお、石灰硫黄合剤と機械油乳剤の混合は絶対に避けてください。また、機械油乳剤の散布した後に石灰硫黄合剤を散布する場合は、1ヶ月以上あけるようにしてください。

表1 落葉果樹（ナシ、リンゴ、カキ、ブドウ、ウメ）の冬季における主な防除薬剤（令和3年12月7日現在）

薬剤名	対象樹種	対象病害虫	希釈倍率	使用時期／使用回数	分類
石灰硫黄合剤	落葉果樹	カイガラムシ類、ハダニ類 越冬病害虫	7～10倍※	発芽前／－	F:M2 I:un
	ナシ、リンゴ	黒星病	7倍		
	リンゴ	腐らん病	10倍	休眠期／－	
機械油乳剤95	落葉果樹（ナシ、リンゴ、カキ、モモ）	カイガラムシ、サビダニ、 ハダニ類及びその越冬卵	16～24倍	－／－	－
	落葉果樹	カイガラムシ類	12～14倍		

注) 1. 表中の※印は、農薬メーカーにより登録倍率が異なるため、ラベルで確認して使用してください。

2. 石灰硫黄合剤、機械油乳剤95とも、ラベルの注意事項を十分確認してください。また、石灰硫黄合剤は強アルカリ性のため、散布後の防除器具の洗浄、飛散による自動車等の塗装面の変色、散布者の皮膚への刺激などに注意してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



農機営農支援部 営農支援課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040